

京丹後市学校再配置実施計画(案)

別紙

【小学校】

現在の状況				
番号	地域	学校名	耐震基準	結果
1	峰山	峰山小学校	旧(一部新)	2次
2		吉原小学校	旧	
3		五箇小学校	新	
4		新山小学校	新	
5		丹波小学校	旧	
6		長岡小学校	旧(一部新)	
7	大宮	大宮第一小学校	新	
8		大宮第二小学校	旧	
9		大宮第三小学校	旧	
10	網野	郷小学校	新	
11		島津小学校	旧	優
12		三津小学校	新	
13		橘小学校	旧	
14		網野北小学校	新	
15	網野南小学校	新		
16	丹後	豊栄小学校	旧(一部新)	
17		間人小学校	新(一部旧)	
18		竹野小学校	旧	
19		宇川小学校	新	
20	弥栄	吉野小学校	旧	
21		溝谷小学校	旧	
22		鳥取小学校	旧	
23		黒部小学校	旧	
24		野間小学校	旧	優
25	久美浜	久美浜小学校	新	
26		川上小学校	新	
27		海部小学校	新	
28		佐濃小学校	旧(一部新)	2次
29		田村小学校	旧	
30		神野小学校	新(一部旧)	
31	湊小学校	旧(一部新)	優	

合計: 31校

教育委員会 採択案

現校名	再配置(第1)案		
	目標年度	再配置後	
峰山小学校	H26	統合	3
丹波小学校		(丹波小校舎)	
吉原小学校	H26	統合	
五箇小学校		(吉原小校舎)	
長岡小学校	H30		
新山小学校	継続	新山小	
大宮第一小学校	継続	大宮第一小	2
大宮第二小学校	H25	統合	
大宮第三小学校		(大宮第二小校舎)	
郷小学校	H26	統合	3
網野南小学校		(網野南小校舎)	
島津小学校	H24	統合	
三津小学校	H23	(網野北小校舎)	
網野北小学校			
橘小学校	継続	橘小	
豊栄小学校	H26	統合	2
間人小学校	H22	(間人小校舎)	
竹野小学校			
宇川小学校	継続	宇川小	
吉野小学校		統合	1
溝谷小学校	H25	(鳥取小校舎)	
鳥取小学校			
黒部小学校			
野間小学校			
久美浜小学校	継続	久美浜小	
川上小学校	H26	統合	3
海部小学校	H23	(海部小校舎)	
佐濃小学校			
田村小学校	H26	統合	
神野小学校	H22	(神野小校舎)	
湊小学校			

統合後の学校名は、別途検討が必要

現校名	再配置(第2)案		
	目標年度	再配置後	
峰山小学校	H26	統合	3
丹波小学校		(峰山小校舎)	
吉原小学校	H26	統合	
五箇小学校		(吉原小校舎)	
長岡小学校	H30	統合	
新山小学校		(新山小校舎)	
大宮第一小学校	継続	大宮第一小	3
大宮第二小学校	継続	大宮第二小	
大宮第三小学校	継続	大宮第三小	
郷小学校	H26	統合	4
網野南小学校		(網野南小校舎)	
島津小学校	H24	統合	
三津小学校		(島津小又は三津小校舎)	
網野北小学校	継続	網野北小	
橘小学校	継続	橘小	
豊栄小学校	継続	豊栄小	3
間人小学校	H22	統合	
竹野小学校		(間人小校舎)	
宇川小学校	継続	宇川小	
吉野小学校		統合	2
溝谷小学校	H25	(溝谷小校舎)	
黒部小学校			
野間小学校			
鳥取小学校	継続	鳥取小	
久美浜小学校		統合	2
神野小学校	H23	(久美浜小校舎)	
湊小学校			
川上小学校	H30	統合	
海部小学校	H23	(海部小校舎)	
佐濃小学校			
田村小学校	H26		

現校名	再配置(第3)案		
	目標年度	再配置後	
峰山小学校	H26	統合	1
吉原小学校			
五箇小学校			
新山小学校			
丹波小学校			
長岡小学校			
大宮第一小学校	H25	統合	1
大宮第二小学校		(大宮第一小校舎)	
大宮第三小学校			
郷小学校	H26	統合	2
網野南小学校		(網野南小校舎)	
橘小学校			
島津小学校	H24	統合	
三津小学校	H23	(網野北小校舎)	
網野北小学校			
豊栄小学校	H25	統合	1
間人小学校	H22	(間人小校舎)	
竹野小学校			
宇川小学校	H25		

地域	小学校再配置案の評価検討結果
峰山	第1案は答申に基づく3校案。五箇小の複式学級発生が防げると共に、クラス替が可能となるため、多様な人間関係が構築でき、集団競技や集団演技が可能となる。ただし、長岡小が統合するには造成増築が必要となる。第2案の峰山小校舎を使用することは、耐震性や防災計画から難点が多いとともに長岡小が統合するには造成増築が必要となる。第3案の1校統合は、通学区域のねじれも解消し、各学年3~4クラス編成となりクラス替が可能。多様な人間関係が構築でき、大規模な集団競技・演技が可能となり、多彩な教職員との出会いも可能。しかし、既設の学校使用が困難であり、統合校の用地確保・建築費用など多額の経費と時間を要すると共に、多方面の通学支援も必要となる。
大宮	第1案で、大宮第一小は現状でクラス替ができ、多様な人間関係が構築できる。また、第二小と第三小の統合で1学年20人規模の学級運営が可能となり、大宮第三小の複式学級発生も防げ、固定化する人間関係が改善する。第3案では、体育館・グラウンド等のスペースが十分でなく、多方面の通学支援も必要となる。
網野	第1案で、網野北小、網野南小ともクラス替えが可能となり、統合対象3校では10人以下学級や複式学級の解消が図られ、多様な人間関係が構築でき、集団競技・演技が可能となる。橘小は数年後には1学級20人の継続的確保が難しくなるものの、第3案での統合は大型バス数台の通学となり、現実性に乏しい。第2案は、三津小を島津小へ統合、又は老朽校舎の島津小を新耐震校舎の三津小に統合する案であるが、統合数年後に全学年20人以下学級となり、望ましい再配置案とは言えない。また、島津小は改築が必要で多額の経費がかかる。
丹後	まず、竹野小が間人小に統合し複式学級を解消する。その後、豊栄小が間人小に統合し10人以下学級・複式学級発生を解消するのが第1案であり、一番妥当な再配置案であると言える。宇川小は全学年20人以下学級が継続し多様な学習集団の編成は困難となるが、第3案では全員の通学支援が必要となり困難。
弥栄	第1案の1校統合は、20人・10人以下学級、複式学級が回避でき、クラス替が可能となり、多様な人間関係が構築でき、集団競技・演技ができ、多彩な教職員との出会いも可能となる。また、中心地の鳥取小に集中するため妥当であるが、校舎増築が必要になる。第2案では、鳥取小が全学年20人以下学級となり、多様な学習集団の編成は困難となる。また、鳥取小・溝谷小とも旧耐震校舎で耐震性の確保に向けた補強工事が2校とも必要となる。
久美浜	第1案は、答申に基づく3校案。小規模校の解消が可能となり、それぞれ多様な学習集団での学習が可能となるため一番妥当な案と言える。ただし、久美浜小は学年により1学級20人の継続的確保が難しい。第2案は2校案で、久美浜小はクラス替が可能となり、多様な人間関係が構築でき、集団競技・演技が可能となるが、通学支援対策に多数のバスが必要となり負担が大きいつともに、川上小が統合するには造成増築が必要となる。

【中学校】

現在の状況				
番号	地域	学校名	耐震基準	結果
32	峰山	峰山中学校	旧	2次
33	大宮	大宮中学校	新	
34	網野	網野中学校	新	
35		橘中学校	新	
36	丹後	間人中学校	旧	優
37		宇川中学校	新	
38	弥栄	弥栄中学校	新	
39	久美浜	久美浜中学校	新	
40		高龍中学校	新(一部旧)	2次

合計: 9校

現校名	再配置(第1)案		
	目標年度	再配置後	
峰山中学校	継続	峰山中	1
大宮中学校	継続	大宮中	1
網野中学校	H27	統合	1
橘中学校		(網野中校舎)	
間人中学校	H25	統合	1
宇川中学校		(間人中校舎)	
弥栄中学校	継続	弥栄中	1
久美浜中学校	継続	久美浜中	2
高龍中学校	継続	高龍中	

現校名	再配置(第2)案		
	目標年度	再配置後	
網野中学校	継続	網野中	2
橘中学校	継続	橘中	
間人中学校	継続	間人中	2
宇川中学校	継続	宇川中	
久美浜中学校	H26	統合	1
高龍中学校			

地域	中学校再配置案の評価検討結果
峰山	
大宮	
網野	橘中はH27から急速に生徒数が減少し20人以下学級が予測。統合により、各学年3~4クラス編成で多様な人間関係が構築でき、部活動の制限、人間関係の固定化も解消する。ただし、通学支援は必要となる。
丹後	宇川中はH25から急速に生徒数が減少し10人以下学級が予測。統合により、各学年2クラス編成で多様な人間関係が構築できる。部活動の制限、人間関係の固定化も解消する。ただし、通学支援は必要となる。
弥栄	
久美浜	高龍中は、生徒数約100人で部活動は制限されるが、統合の第2案は位置的に既設の学校使用が困難であり、統合校の用地確保・建築費用など実現には多額の経費と時間を要する。

耐震基準

旧: 昭和56年以前の基準により設計・建築された建物
 新: 昭和57年以降の基準により設計・建築された建物